



永島福太郎録
島戦記
後編六号
加賀吉板



永島福太郎様
永島孟高画

445
6

繪本 鹿兒島戰記

東京 青成堂主板

鹿兒島軍記後編六之卷

東京 永島福太郎錄

于時明治十年七月一日の未だ明やぬ残月も霧のため
光りを奪つて咫尺もつらぬ

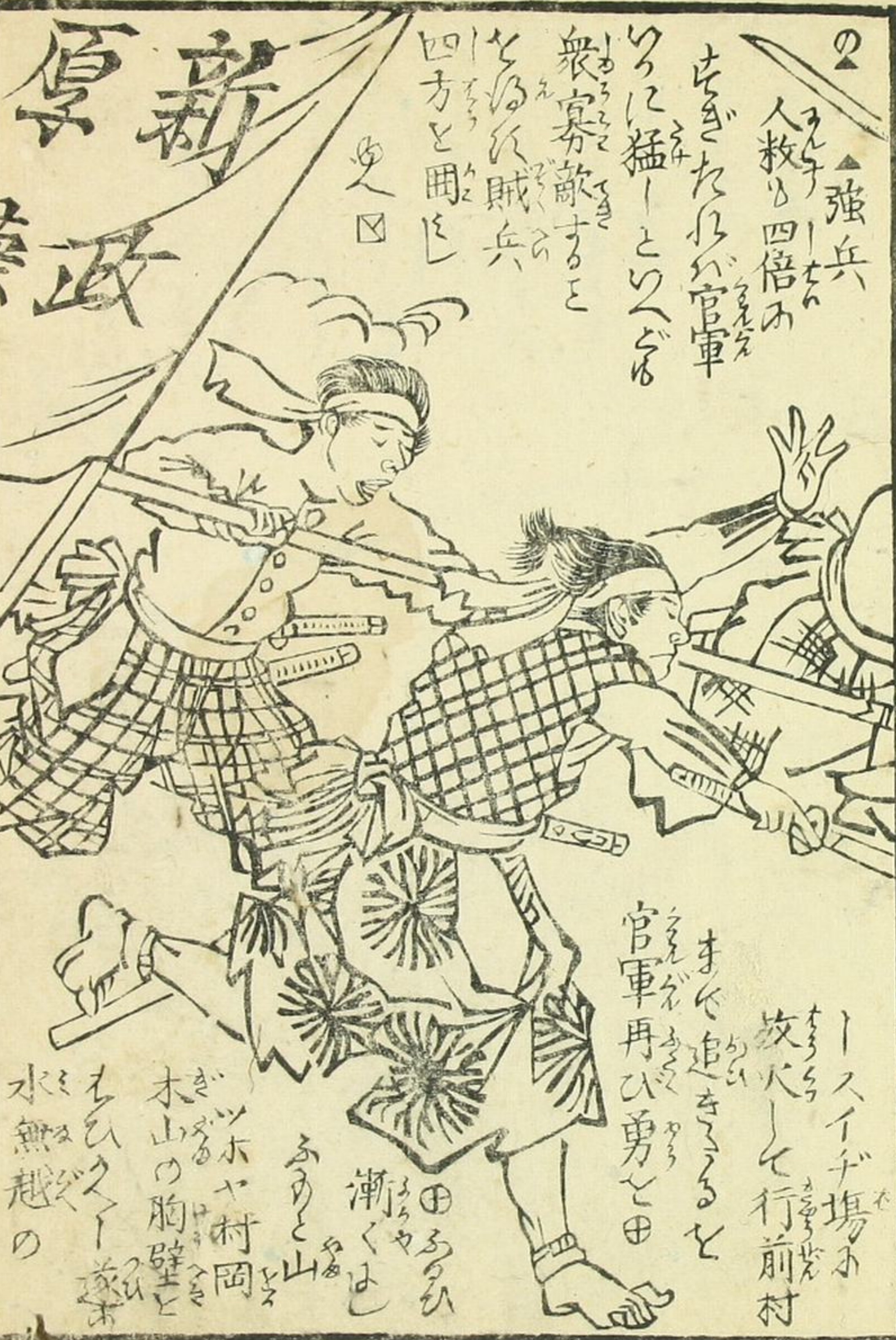
其よりく加久藤の方の
山谷間道と迂回

水無越口の官軍の警告
備手薄ると知るるが
只一舉して打破らんと進撃の聲

場々目撃して攻寄る此時官軍の方より鯨皮のらあまをうけつ
八方を見渡しとも朝霧あつく朦朧として判然とすらざれば至急
乍候と出してやうすを見する小賊の多人救間近におを以來むとの



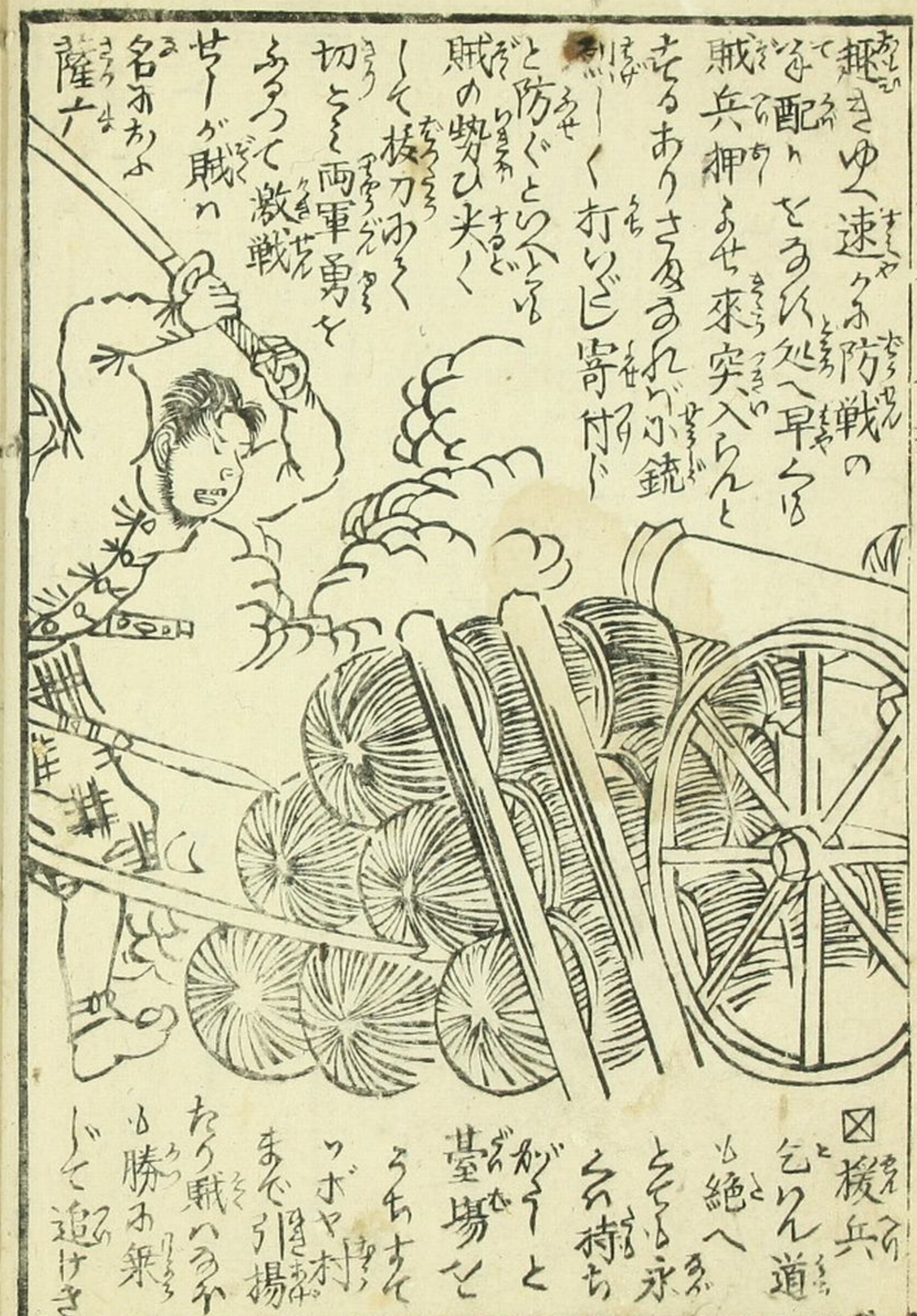
五八五七ノ後編六



新 政

の 強兵
 人救り四倍の
 力を以ての官軍
 衆寡敵すこと
 四方と用じ

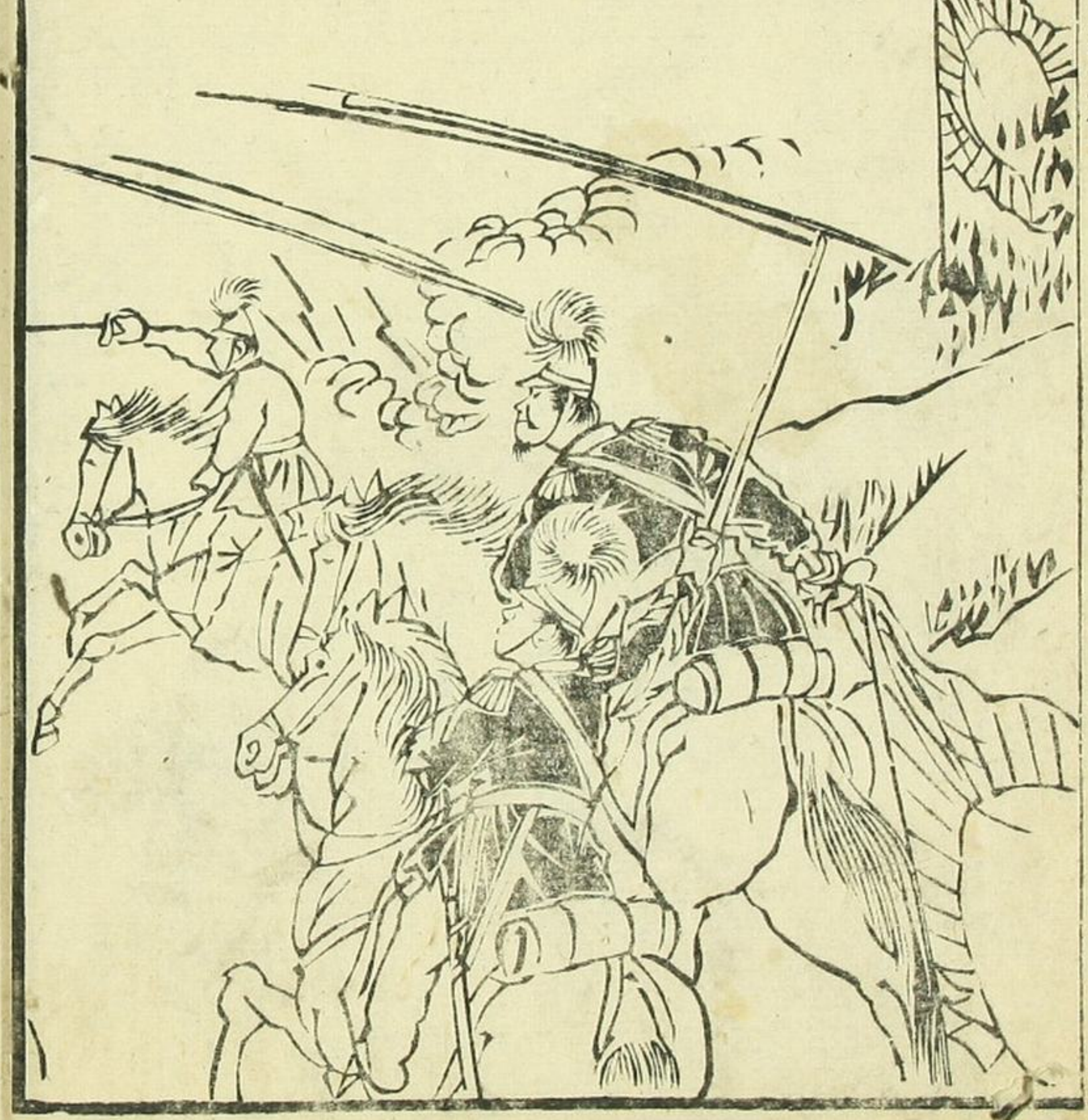
一スイナ場
 故一七行前村
 官軍再び勇と
 田ふる
 漸くは
 ふり山
 ツホヤ村岡
 木山の胸壁と
 水無越の



趣きゆ速く防戦の
 配りてありは早
 賊兵押寄せ來突入らんと
 するありさなるれ
 烈しく打いじ寄付ド
 と防ぐとの
 賊の勢ひ大く
 しく抜刀あり
 切とて両軍勇々
 ぶつて激戦
 せしが賊の
 名おあふ
 薩六

後兵
 乞ひ道
 絶へ
 永
 持ち
 かつと
 臺場と
 ろおす
 ツホヤ村
 まを引揚
 たり賊へる
 小勝り乗
 して追け

臺場と奪ひ
かくさんとほ
ねれども官軍の
小勢とのひ賊の
勢ひ益々まじり
殊に惣軍つとせと
生に戦ひ甚ぶ
難多るゆへ一
先兵と引まとい
ツボヤ村を
引あると
賊もその
兵をよめ

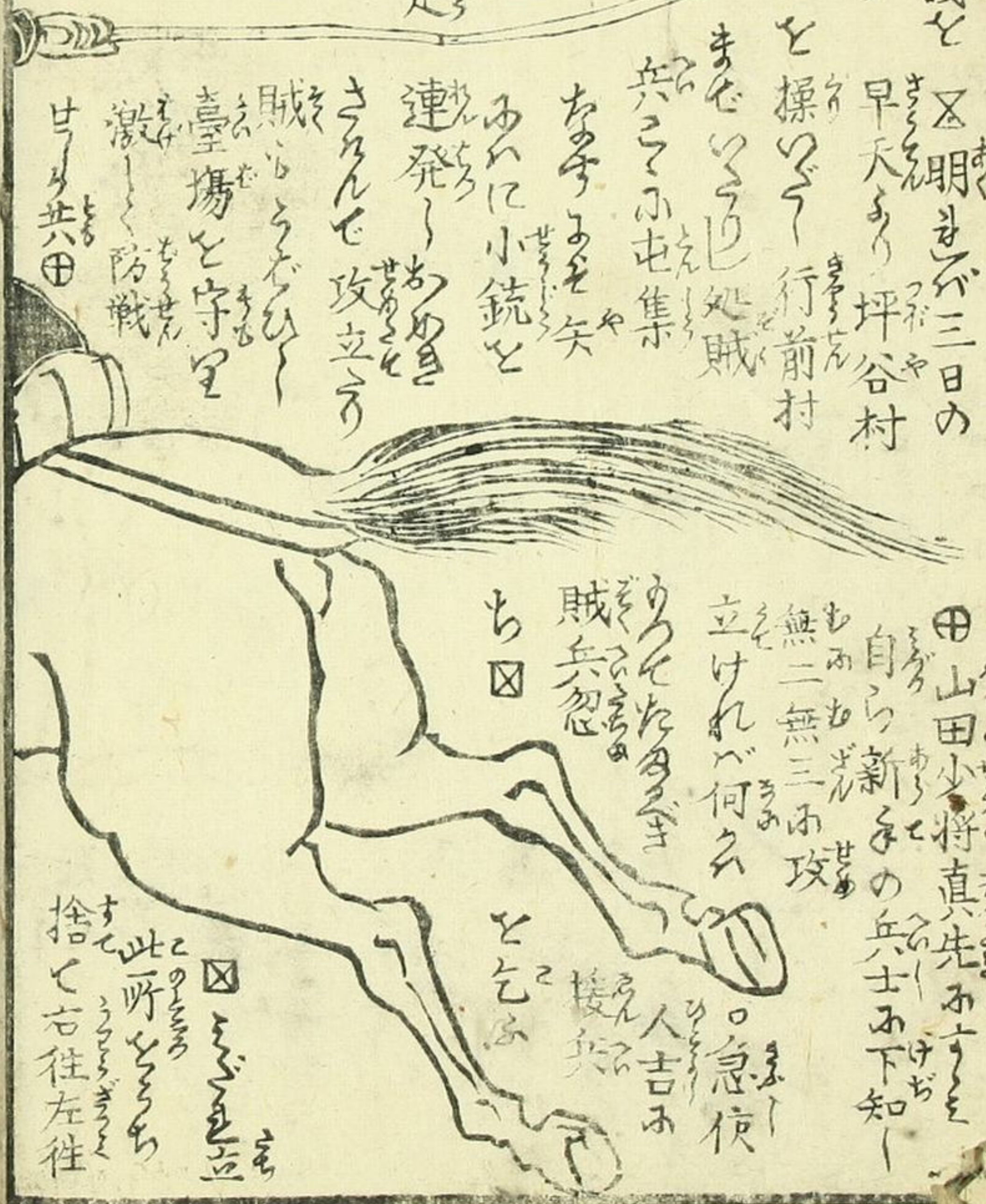


水無越の
胸壁を
守備嚴重
小かきあちり
官軍の
小勢
を以て
数時の
苦戦
つら
る兵糧
の當
勇気



援兵を
乞ひあせむ
賊とあひ
人吉の
本營へ
急使をせ
め

再戦の軍議と
 又明き三日の
 早天より坪谷村
 を標のう行前村
 まをのりて賊
 兵を小屯集
 ちをすまを矢
 あいに小銃と
 連発しあめを
 さるんで攻立ち
 賊らうをひ
 臺場を守り
 激し防戦
 けり共田



田山田少将真先あす
 自ら新子の兵士あ下知
 無二無三の攻
 立ければ何
 りをたぬま
 賊兵忽
 ち
 急依
 人吉あ
 援兵
 と乞ふ
 此所を
 捨て右往左往

のせ味方
 終日の苦戦
 兵士あひひ
 労はこれい
 此う賊の
 あをられあ
 甚とのりて心めとほ
 速り子援兵とさ
 むけくは下さる
 との注進をえ諸將
 大ひのあどろれそ
 時多分とよめ
 人吉城の守兵とのに



敗走をす
 官軍つひ
 尾撃多岡本
 山の臺場と援
 と進むをりか
 道の左右の木
 間より賊の伏兵
 一時あこり
 防兵
 山田少将
 数百の兵を率い
 ツホヤ村の兵と合
 官軍これ

遂小岡本山を
 うち越て水無
 越口の旧線小
 ころに賊の
 此処を固く守り
 防戦の術と
 尺を以て戦ふ
 程小かくての
 果しとて官
 軍より破列
 弾丸と運發
 ありしを中
 破列は賊の死傷大なるなり



打立られ
 意気
 死奮
 の勇とあふ
 兵と三子
 小分けの
 一正而二の
 左右の伏
 兵と追退け





豊後守 佐々木 五郎 六郎

五

第三旅團三浦少將第四
旅團曾我少將也
されば第三第四の
旅團へ吉野重富
栗野横川の各所を
拔く
加治木小
達一第
一旅團の
兵と合し都の
城を攻ると
志布志



☐ 應接し
て清水
山小
西道一時小
進
撃一正午
賊兵大い勇を
ふる終日挑

小標
の
七月
七日
別働隊
第一旅團と
第二旅團の
二隊ハ踊り村
より霧島山
進撃するさんと
大久保へ進
入したる小
此所より
各処あて合

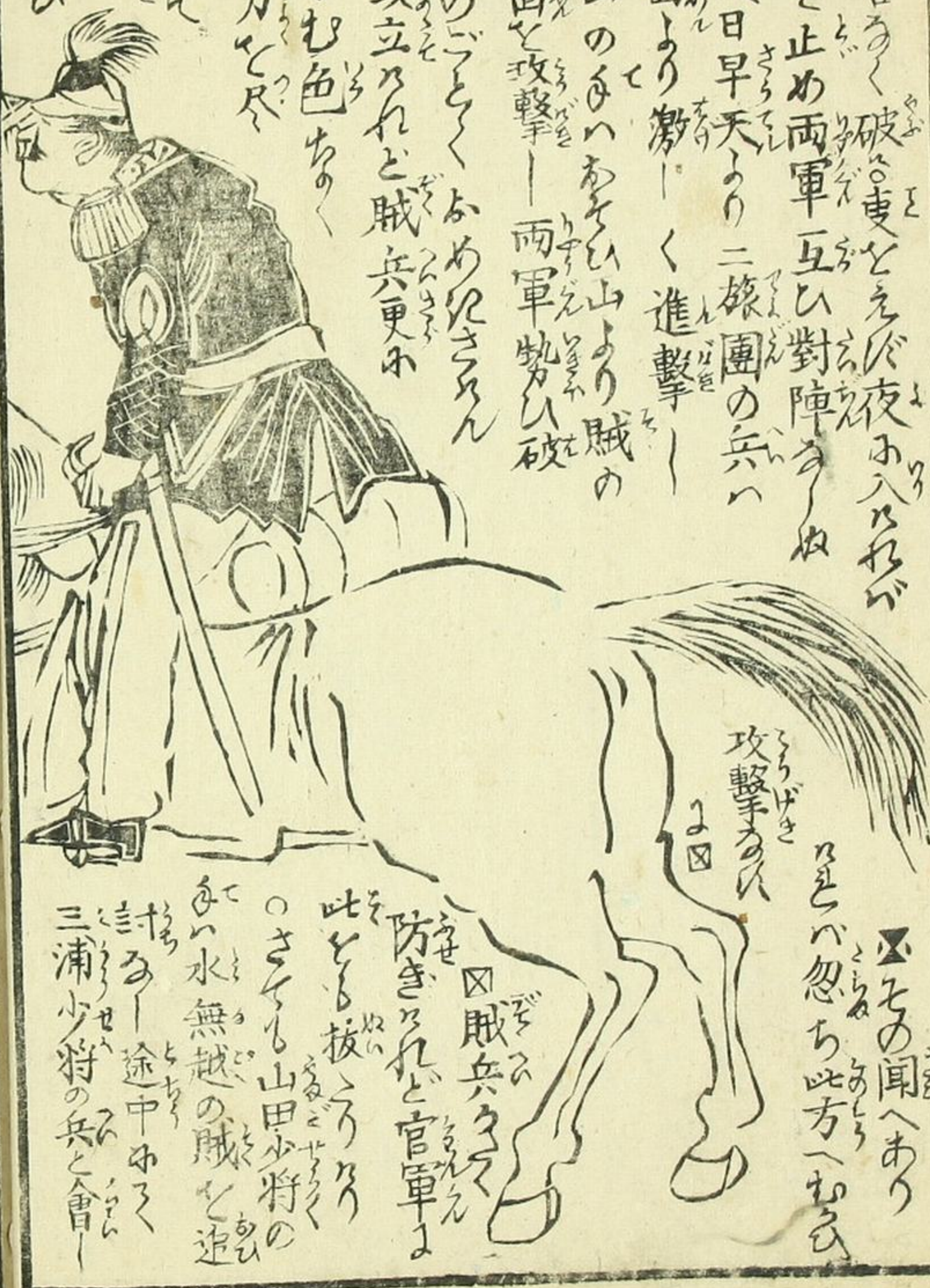


敗軍
あつたる敗兵比目恋ノ
屯集して兵員あひ
あつたれば大山少將の
表へが名
小賢救千
の大兵
るれハ
わらふ
夕刺
及て賊勢
少

見事な後編

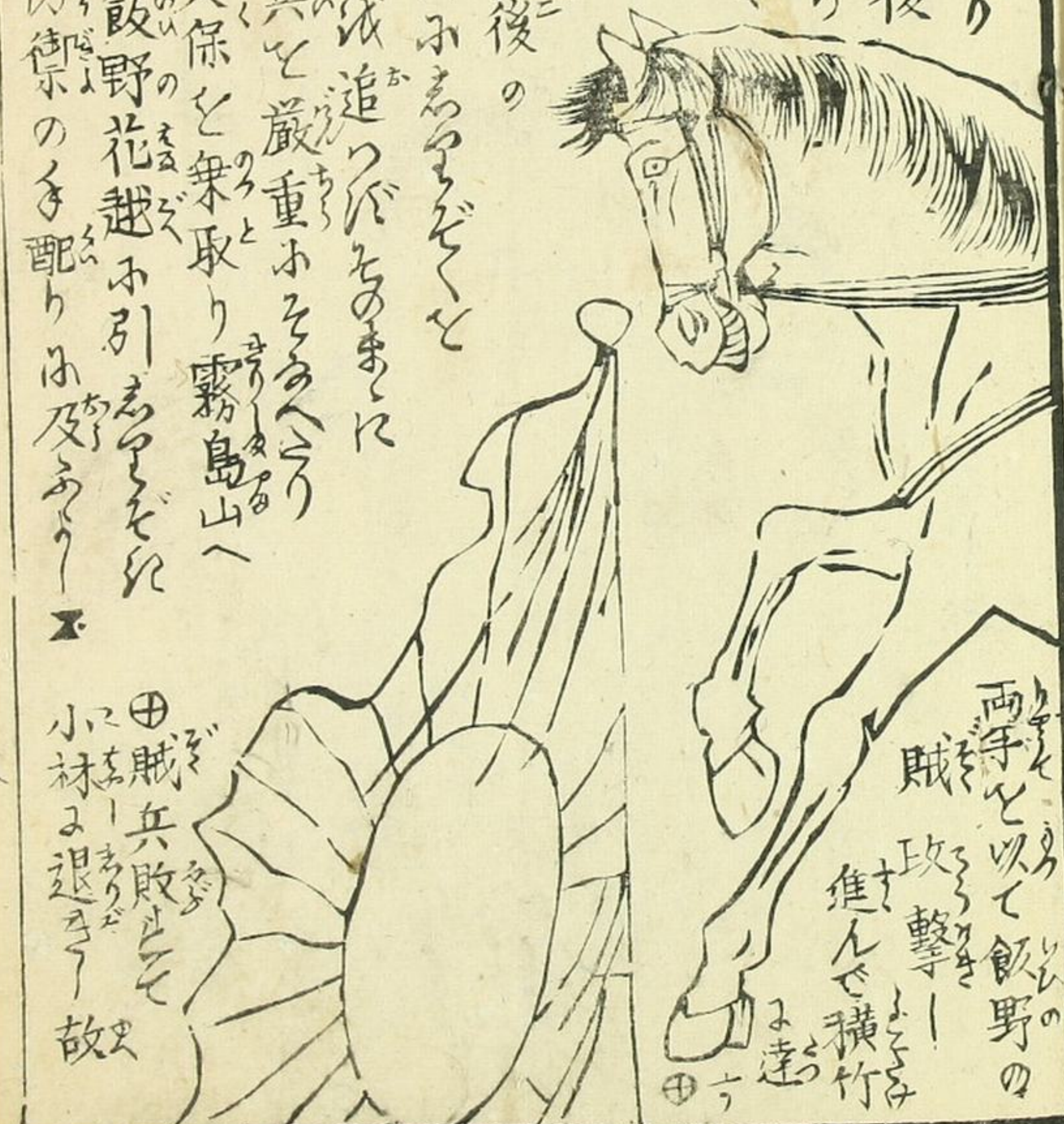
左右あり破るを夜ふらぬ
 兵と止め兩軍互に對陣すぬ
 同八日早天より二旅團の兵の
 正面より激しく進撃す
 大山のふいふを以て山より賊の
 側面を攻撃す一兩軍勢は破
 竹のふらりとふめはさるん
 で攻立られと賊兵更ふ
 ひるむ色あは
 死力て尽
 防戦ひ

△その聞へあり
 是の忽ち此方へむ
 攻撃す
 賊兵は
 防ぎられと官軍よ
 此とも抜たりなり
 ○さても山田少將の
 水無越の賊を遠
 討み途中小
 三浦少將の兵と會

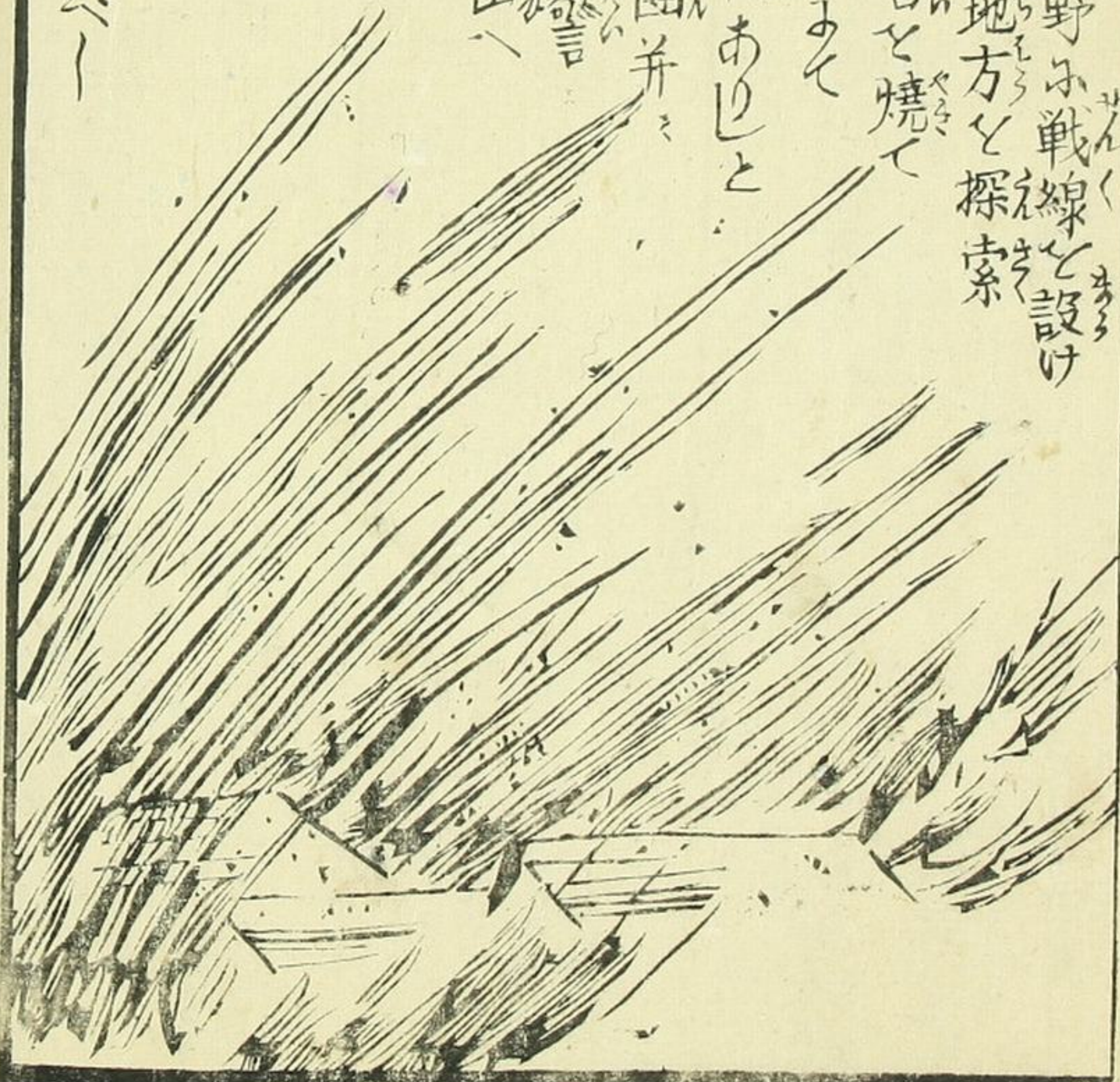


少時
 勝負
 四時ふら
 賊兵ふら
 たるに
 日没のころに
 初らり追々脊後の
 山間へ入り引ふるをぞと
 官軍あへてと色成追つたるまに
 兵と纏め守兵と嚴重おそるなり
 同九日官軍大久保と兼取り霧島山へ
 進撃すの夕賊は飯野花越ふ引ふるをぞと
 此所ふ踏止り防衛の手配りふ及あり

△賊兵は
 防ぎられと官軍よ
 此とも抜たりなり
 ○さても山田少將の
 水無越の賊を遠
 討み途中小
 三浦少將の兵と會



山田三浦の両将ハ飯野小戦線と設け
 舟候隊とありて小林地方と探索
 せし小賊ハ三浦宮を焼て
 鷹野原小引あけ此所ありて
 官軍の舟候隊と二戦ありと
 あり別働隊一旅團并
 第三第四の旅團と
 視隊の各隊霧島山
 大進撃あり賊兵嶮
 阻みしつて二日間ハ
 激戦伍長某賊ハ
 隊長と二騎の血戦ハ
 次編の巻中ありナド



010190508043

